

「あとがき」

年老いて様々な経験を積んでみると、人の心がどのようなように働いているのかについて、大きな関心を持つようになる。人はどうして心を持つことが出来るのだろうか。心っていったい何なのだろうか。これは私が長年抱いてきた疑問であった。

孫娘アヤが生まれて、その成長を見守っているうちに、この疑問に対する一条の光がさし込んできたように感じた。アヤの言動を見ていると、幼児の心に芽生えて育っていく心の様子が垣間見えるように思えて、これは記録にとどめておく価値があると考え、メモを取り始めた。アヤが六才になるまでに書き溜めたメモをもとにして本書が出来上がった。

人の身体の成長は、その胚状態からそれが組織化して構造を持った身体になるまで、生命科学によって詳細が解明されようとしている。それに比べると、人の心の芽生えと成長に関しては、発達心理学や二技術の両側面から研究が進められているものの、まだ謎多き部分が多い。

近年のいろいろな社会現象を見聞きするにつれ、心の教育の大切さが痛感されるところである。特に、他者の心を推し量り、同情を持って思いやる心を育てることの大切さは、誰もが等しく感じているところであろう。同情心の醸成は幼児期の体験にあるように思われる。

心が芽生える幼年期を大切にしたいものである。